

各種分析

分析項目	価格	分析方法	備考
《葉身分析一式》			
貯蔵性炭水化物 全炭水化物 全糖 全窒素 リン酸 カルシウム マグネシウム カリウム 銅 亜鉛 鉄 マンガン ケイ酸	10,000	近赤外分光法	芝生の刈りカスから各成分の含有率を測定 年次変動の確認及び肥料散布後の確認など、肥培管理のサポートに役立つ
病原菌検定	10,000	顕微鏡観察、培養	罹病芝の観察、培養により病気の原因を的確に判断
BF値	10,000	希釈平板法	細菌の数を糸状菌の数で割り算出。桁数が多ければ多いほど状態の良いグリーンといえる
画像解析	10,000		ソイルサンプラーで採取した芝の根を水で洗浄し、スキャナーで2次元の画像にすることで、ルートマット層や根の状態を視覚的にチェック出来る

【採取方法と量】

- ・葉身……………両てのひら山盛り一杯 できれば、乾燥して郵送等してください
- ・病気……………ホールカッターで病斑と健全部の境目が中央になるように
- ・画像解析…ソイルサンプラーで穴あけが中央になるようにし、ダンボール等で包み固定する
- ・BF値……………ホールカッター1コ分（深さ3～5cm）で濡れたままの状態

分析項目		価格	分析方法	備考
《土壌分析一式》				
pH 全窒素 有効態リン酸 リン酸吸収係数 置換性石灰 置換性苦土 置換性加里 置換性ソーダ 塩基置換容量 塩類濃度 粒径分布		15,000		グリーンの土壌成分をさまざまな角度から詳細に分析することにより、土壌状態を的確に把握することが出来る
pH	H ₂ O・KCl	1,600	ガラス電極法	健康状態を推測
全窒素	T-N	2,400	ケルダール法	窒素化合物全体のことで、いわゆるタンパク源であり、植物の生長（主に葉）を促す
有効態リン酸		3,000	モリブデン酸アンモニウム塩酸法	
リン酸吸収係数		3,000	バナドモリブデン酸法	リン酸を固定する力の尺度
置換性石灰	CaO	2,400	EDTA法	作物が、利用・吸収できる陽イオン
置換性苦土	MgO	2,400	EDTA法	〃
置換性加里	K ₂ O	2,400	原子吸光法	〃
置換性ソーダ	Na ₂ O	2,400	原子吸光法	
塩基置換容量	CEC	3,000	シュレンベルガー法・フォルモール法	陽イオンを引き付ける力の尺度
可溶性マンガン	Mn	2,400	原子吸光法	人間で言うビタミンに当たり、不足すると、体調を崩した状態になる
可溶性鉄	Fe	2,400	原子吸光法	〃
可溶性銅	Cu	2,400	原子吸光法	〃
可溶性亜鉛	Zn	2,400	原子吸光法	〃
塩類濃度	EC	2,000	電気伝導度計法	肥料分の判断に。濃度が高すぎると団粒構造が壊され、保水・通気・透水性が悪く、根腐れ等がおきやすい
粒径分布		3,000	キューンワグナー法	
透水性		10,000	定水位法	
三相分布		3,000	乾熱法	液相（15～25%）、気相（15～30%）、固相（45～65%）の割合を測定
比重	仮比重	2,000	乾熱法	
保水性	圃場容水量、最大容水量	3,300	乾熱法	

各種分析

分析項目		価格	分析方法	備考
《水質分析一式》				
pH 塩類濃度 カルシウム マグネシウム カリウム ナトリウム		10,000		芝草に散水可能かどうかという視点で結果を考察
pH		1,600	ガラス電極法	
塩類濃度	EC	1,600	電気伝導度計法	
全窒素	T - N	2,600	ケルダール法	
全リン	T - P	3,000	バナドモリブデン酸法	
カルシウム	CaO	3,000	原子吸光法	
マグネシウム	MgO	3,000	原子吸光法	
カリウム	K ₂ O	3,000	原子吸光法	
ナトリウム	Na ₂ O	3,000	原子吸光法	
マンガン	Mn	3,000	原子吸光法	
鉄	Fe	3,000	原子吸光法	
銅	Cu	3,000	原子吸光法	
亜鉛	Zn	3,000	原子吸光法	

【採取方法と量】

- ・ 土壌……………ホールカッター1コ分（深さ5～10cm）ただし、透水性がある場合、土のう袋半分ぐらい
- ・ 水質……………2Lペットボトル1本 口元までいっぱい入れる